

青少年育成委員会ニュース



第35号

令和5年3月発行

毎年11月20日は「さっぽろ子どもの権利の日」

地区の活動紹介

北 区

第46回しのろばらとスノーフェスティバル

篠路茨戸地区青少年育成委員会 日時 令和5年2月12日(日)

場所 篠路コミュニティセンター

3年ぶりのスノーフェスティバル

令和5年2月12日(日)、篠路茨戸地区青少年育成委員会と篠路茨戸連合町内会の主催、篠路茨戸地区子ども会育成連絡協議会の共催により、地区を代表する冬の一大行事である「しのろばらとスノーフェスティバル」を3年振りに開催しました。当日は、参加者、応援者、関係者など総勢470名もの方々が参加しました。

気温も上昇し、湿気のある雪質は雪像作りに最適で、各チームとも綿密な打ち合せと工夫を施し、甲乙つけがたい立派な雪像が16基も出来上がりました。



雪像制作後、篠路コミュニティセンターホールにて篠路太鼓の演奏や表彰式を行い、優秀作品には賞状とトロフィー・盾を授与し、事故やけがなく終了することができました。参加者の皆様はもちろんのこと、後援いただいた数多くの団体や協賛企業の応援に改めて御礼と感謝を申し上げます。

厚別区

わいわい冬フェスタ in もみじ台

もみじ台地区青少年育成委員会 日時 令和5年1月7日(土)

場所 もみじ台管理センター2階大ホール



笑顔あふれる輪投げ体験!

令和5年1月7日(土)10時00分から、もみじ台管理センター2階大ホールにて、『わいわい冬フェスタ in もみじ台』を開催しました。

このイベントは、子どもたちがさまざまな遊びを体験する機会を設けるとともに、子育て家庭や地域住民などの世代間交流を深めることを目的として、「わいわい冬フェスタ in もみじ台実行委員会」が主催しています。今回は2歳以下のお子さまと保護者20組を対象に全部で5つの遊びのコーナーが設けられました。

もみじ台地区青少年育成委員会は輪投げコーナーを担当し、子どもたちが安全に楽しめるように見守りながら、輪投げの遊び方を伝えました。輪投げ台に輪が入ると嬉しそうに遊ぶ子どもたちの姿に、家族をはじめ青少年育成委員会のスタッフにも自然と笑みがこぼれ、楽しいふれあいの場となりました。

白石区

きくもフェスティバル

菊の里地区青少年育成委員会

日時 令和4年10月29日(土)

場所 菊水元町児童会館

縁日のお手伝い

菊水元町児童会館主催のきくもフェスティバルに参加し、手作りの射的やひもくじが並ぶ縁日で、ヨーヨー釣りを担当しました。例年、地域の夏祭りでヨーヨー釣りコーナーを担当していますが、コロナ禍で中止になっていたため、久しぶりのヨーヨー作りにわくわくしました。

ハロウィンが近いという事もあり、スタッフも仮装をして子どもたちを待ちました。子どもたちも色とりどり、思い思いの衣装でやって来て、一気にお祭りムードになりました。ヨーヨー釣りに一喜一憂する姿や、歓声、笑顔すべてが新鮮であつという間に時間が過ぎて行きました。

久しぶりに子どもたちとふれあえた機会に感謝し、これからも地域の方々とともに、子どもたちが笑顔になれるよう活動していきたいと思ひます。



東 区

児童虐待について考える

北栄地区青少年育成委員会

日時 令和4年10月25日(火)

場所 北栄会館

子どもたちを虐待から守るために

全国で児童虐待のニュースが増え、北海道でも大きく取り上げられています。そこで、虐待について知識を深めるために、児童相談所の職員に来ていただき、「子どもたちを虐待から守るために」をテーマにした講座を開催しました。講座では、児童福祉に関する相談機関と役割分担や児童虐待の内容などについてお話をいただきました。

年々増加傾向にある児童虐待ですが、市民からの通報が増えていることも事実だそうです。何か気になることがあれば迷わずに通報して欲しいとのことでした。

児童虐待の問題はとても難しいですが、私たち青少年育成委員会委員は子どもからのサインに気づいてあげられるように地域のおせっかいおじさん・おばさんとして地域の子どもたちを温かく見守っていきたく思ひました。



南 区

北海道開拓の村、北海道博物館見学会

真駒内地区青少年育成委員会

日時 令和4年10月22日(土)

場所 北海道開拓の村、北海道博物館

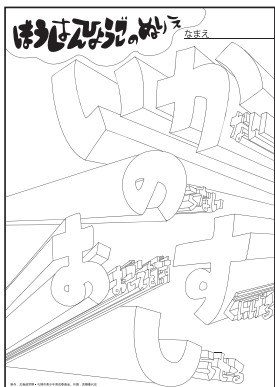
北海道の歴史や文化、暮らしを知ろう

令和4年10月22日(土)、コロナ禍の中ではありますが、真駒内地区青少年育成委員会の事業としては3年ぶりの施設見学会(北海道開拓の村、北海道博物館)を実施しました。

マスク着用や手指消毒など十分な感染対策のもと、北海道開拓の村では歴史ある北海道の建物を見て回り、開拓当時の生活を体感的に理解してもらうことができたと思います。また、村内では馬車鉄道に乗ることができ、往時を偲ぶことができたのではないのでしょうか。北海道博物館の見学では、特に北海道の原住民であるアイヌ民族の住居や生活様式に、子どもたちは関心をもっていました。

帰路には、解体が決まった百年記念塔をバックに記念写真を撮ることができ、少人数ではありましたが有意義な一日を過ごすことができました。





感染症拡大による事業中止を乗り越えて

令和2年度以降は、感染予防を図りながら、子ども達と地域住民にしっかりと注意喚起していくため、広報に特化した活動を展開しています。一つ目が、「児童虐待防止ラジオCM」で、地域住民にラジオを通じて呼びかけることで、児童虐待の通報のきっかけを作ろうというもの。三角山放送局の協力の下で4種類のCMを委員の声で録音し1日6回放送しています。二つ目が、「青少年を見守る店マップ新聞折り込み」で、青少年を見守る店のマップを作成し、新聞の折り込みチラシにして今年度は地区内6,615世帯に配布しました。三つ目が、「防犯標語ぬりえ『いかのおすし』の制作配布」で、低学年以下の子もたちを犯罪から守るため、認知度の高い「いかのおすし」をぬりえにして更に啓発を拡げようというものです。作画は本郷新記念札幌彫刻賞受賞者の高橋喜代史氏です。



冬のお楽しみ会

ゲームで心も体もあたたまろう!



令和4年12月11日(日)、大通地区青少年育成委員会が大通子ども会と共催する「冬のお楽しみ会」が中央区民センターで開催され、地域の子どもなど22人が参加しました。

会場では、雪だるまたおし、パン食い競争、ビンゴゲームなど、様々なゲームが行われましたが、箸でみかんをつかんでゴールを目指す「みかんひろい」では、上手に箸を操る子どもの姿が印象的でした。また、「射的」では、当たったお菓子がゲットできるとあって、子どもたちは皆真剣な表情で楽しんでいました。

そのほか、ソフトディスクを使用してドッジボール形式で行う「ドッジビー」は、初めて体験する参加者もいて、コツを掴むのに苦労しながらも、大変盛り上がりしている様子でした。会場は、終始子どもたちの笑い声や歓声に包まれ、とても楽しい会となりました。

コロナ後の活動再開

3年ぶりのリアルイベントにも参画

中の島地区青少年育成委員会では、令和4年の秋から徐々に活動再開を模索してきました。

まず、令和4年11月10日(木)に委員研修会を実施しました。テーマは「青少年とSNS」。清田高校の生徒の自主制作DVDを観ることで、SNSにはあまり縁がない育成委員もその危険性を実感することができました。また、「養育里親」の啓発や普及に取り組んでいる委員から、制度についての詳しい説明があり、大変勉強になりました。

令和5年1月11日(水)に中の島小学校で3年ぶりに開催された「げんき雪んこまつり」では、受付や雪遊びの相手などを担当し、子どもたちに楽しんでもらいました。

1月23日(月)~25日(水)に冬の中の島を光で彩る恒例の「中の島アイスキャンドル大作戦」が開催され、委員会メンバーも会場運営や子どもたちの雪遊びの相手になって活躍しました(25日は悪天候のため中止)。



「青少年を見守る店」を知っていますか？



ぼくは『みまもるくん』。ここでは地域での見守り活動について紹介します

札幌市では、買い物などに訪れた子どもたちに温かい声をかける、お酒や煙草、成人雑誌など子どもたちに悪影響を及ぼすようなものを「売らない」「見せない」など、子どもたちが安心して暮らせるまちづくりに協力してもらえるお店を「青少年を見守る店」として登録してもらい、地域が一体となって子どもを見守る活動を推進しています。

「青少年を見守る店」は、令和5年1月末時点で札幌市内に5,636店あります。「青少年を見守る店」の登録は、札幌市青少年育成委員会や中学校区青少年健全育成推進会などの地域の方々がお店を訪問して、より多くのお店に協力してもらえるように、登録推進活動を行っています。



このシールが目印です

ここでは、「青少年を見守る店」が行った令和4年度の取組みについて、いくつか紹介します。

Case.1 朝学校に行きたくないとお店の前に座っている小学生が居た。
学校に電話をしたら、先生が迎えに来てくれた。(白石区・飲食店)



困った時に近くのお店に助けを求められるのは子どもも保護者も安心だね!

Case.2 小学生が友達同士で来店し、高額なゲームのプリペイドカードを買うことがあり、声をかけた。
同じことがあれば、声をかけていきたい。(豊平区・コンビニ)

おこづかいだとしても、高額の買い物をしているのはちょっと心配だね…
声をかけてくれる店員さんの配慮がありがたいね!



Case.3 登校の見守りをする中で、横断歩道ではないところを横断する子どもが多く、
学校に注意喚起を促す連絡をしたところ改善された。(厚別区・理髪店)



心配なことがあった時に、「あー、危ないなー」と思うだけでなく、
連絡・相談してくれるのが、まさに「見守る目」だね!

これらの例からも、「青少年を見守る店」が日常的に子どもの見守りをしていただいていることがわかります。この見守り活動が広がることで、地域がより安心・安全な場所になり、子どもやその保護者が安心して暮らせるようになります。

「見守る店」の登録推進活動をしている地域の皆様もありがとうございます。これからも子どもたちの安心・安全のために、ご協力をお願いします!

札幌市青少年育成委員会とは

地域において子どもたちの健全な育成に関する実践活動を推進するため、市内90地区(連合町内会単位)に組織されています。

市長から選任を受けた委員が、スポーツ・文化事業や環境対策事業などのさまざまな事業を実施しています。

札幌市青少年育成委員会委員の任期は3年で、令和5年4月1日から新しい任期となります。任期の途中で新たに委員になることができます。詳しくはお問い合わせください。

発行

札幌市子ども未来局子ども育成部子どもの権利推進課

札幌市中央区南1条東1丁目大通バスセンタービル1号館3階

電話：011-211-2942 FAX：011-211-2943

SAPPORO

